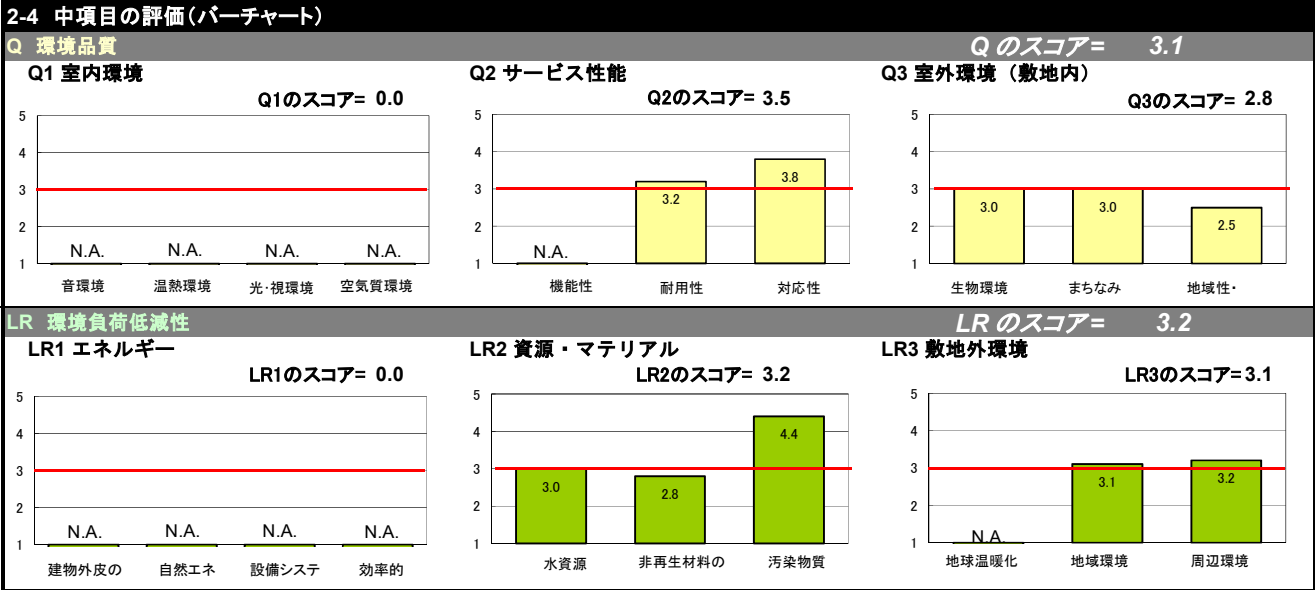
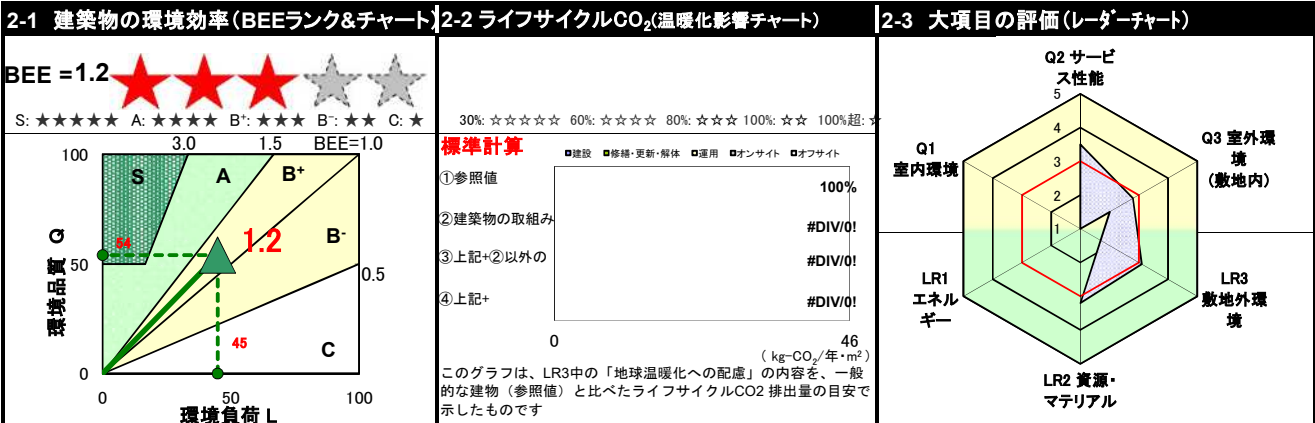


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本荷造運送(株)都田第2倉庫_新	階数	地上1F
建設地	静岡県浜松市浜名区都田町字白沼	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	10人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,340時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年11月 予定	評価の実施日	2025年4月3日
敷地面積	5,979㎡	作成者	(株)国都 一級建築士事務所
建築面積	3,931㎡	確認日	
延床面積	4,005㎡	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
評価対象外	仕上がり材や配管の更新間隔が短くならないよう材料の選定に配慮した。 また、倉庫の階高を高く設定し、建物の有用性を高めるよう配慮した。	外来種を自ら取り入れないよう配慮した。 また、壁面位置を道路境界線から離す、建物の高さを周辺の建物高さと同程度、建物の明度・彩度を抑えるなどを行い周辺のまちなみへの調和に配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
評価対象外	発泡剤不使用の断熱材を採用し、地球温暖化に配慮した。	敷地内での貨物積降スペース、管理車両・貨物運搬車両の駐車スペースを確保し、交通負荷抑制に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要

建物名称	日本荷造運送(株)都田第2倉庫 新築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★
------	----------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.0 /5	    	ふつつ 
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 /5	    	がんばろう 
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3 /5	    	ふつつ 
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0 /5	    	ふつつ 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上 	ふつつ 3 点以上 
			がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.0
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④外壁: GL鋼板、内壁: PB貼り ④給水管: H1VP、排水: VP	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内の既存樹木を残置した、外構緑化指数: 60% ⑥燃焼機器なし	Q-3 1 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨LED照明の採用	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2 ⑩	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水コマの採用 ⑫躯体と仕上が容易に分別可能 ⑬ガス消火設備を用いない消火設備の採用 ⑬発泡剤不使用の断熱材の採用	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮見付面積比: 35%、隣棟間隔指標: 0.5以上(建物高さHが基準高さHbの1/2未満)、地表面対策率: 36%	LR-3 1 2 2.2 ⑮	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	2.9
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯地域係数Z=1.2 ⑰節水型器具の採用	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	3.3
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲階高: 6.9m、壁長さ比率: 0.11	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由度
	■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) ⑲メッシュフェンスの採用により、防犯に配慮	Q-3 3 3.1 ⑲	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	3.0
	■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/㉑敷地内温熱環境の向上) ⑲敷地内の既存樹木を残置した、外構緑化指数: 60% ⑲街路樹や周囲の植栽と同種の樹木である既存の桜を残置した ⑲燃焼機器なし	Q-3 1 2 3 3.2 ⑲	⑲ 生物環境の保全と創出 ⑲ まちなみ・景観への配慮 ⑲ 敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/㉑温熱環境悪化の改善) ⑲見付面積比: 35%、隣棟間隔指標: 0.5以上(建物高さHが基準高さHbの1/2未満)、地表面対策率: 36%	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2 ⑲	⑲ 持続可能な森林から産出された木材 ⑲ 温熱環境悪化の改善